

福祉機器はだれのため？

1980 年ごろから在宅医療、介護が「これからの流れ」とばかりに注目を集めるようになりました。
そのなかで福祉機器も注目を集めるようになってきました。
あのころの記憶。

在宅で暮らす高齢者のためと「トイレ付きベッド」なるものも生まれました。
みなさんはどんな商品が想像出来るでしょうか？
製造者は大手家庭用ベッドメーカーでした。
それはベッドのマットレスの「真ん中」に大きな穴を開けそこに水洗機能が設けられています。

離床をさせることなく、「そこで用をたしてくれ」という代物でした。
考えると不潔ですね。そして離床という動作をしないのだから身体を動かす機会も減ります。身体は動かさなければどんどん機能が低下します。

つまり「寝たきり製造機」なんです。

この商品が生まれた発想は「介護者が楽をする」ということです。

そこで寝る人の機能の維持や向上、生活の質は考えられていません。
残念ですが、いまだにその残骸は見てとれます。

というか、インターネットで検索すると未だ商品として存在することに驚きました。

https://www.resona-fdn.or.jp/data_files/view/2074/mode:inline

これはこの現代では特殊な例といえるのでしょうか？

たとえば、デイサービスやデイケアで重宝されている送迎車はどうでしょうか？一見簡単に車椅子で乗り込むことができて安全と思いますよね？ところが少し視点を変えてみるとこの車は利用者から見ると首をかしげる品物なのです。

車椅子ごと車に座る方はとても高い位置に身体があります。
それは普通の車に座るよりも揺れます。そして大方の車椅子のシートは布一枚。クッションはありません。よく揺れる車にクッションのない椅子で揺られるのはつらいですよ。

介護する側の事情だけで考えられた商品にはその商品を使う側の視点が欠けていることがままあります。

わたしたちは介護する側の視点だけではなく、介護される側の視点も想像力を駆使して持つ必要があるのではないのでしょうか？

そんな視点で見たとき、この車は良いなと思うものを見つけました。

愛知県のリフト製造会社モリトーの考えたシステムです。

商品名は「つるべ」のCセット。

この商品は自宅の介護ベッド用のリフトを乗用車に移植したような商品です。

アームに関節のついたリフトで後部座席にも助手席のシートにも外からつり上げて座って頂く事ができるのです。
これならば長距離の移動でも身体への負担は少なく済みます。



※モリトーのホームページより拝借しました。

もう一種類、電動シートが乗降時に外にせり出す車もありますが、移乗時に介護者が抱える事が必要です。
それは介護者の負担になりますのでリフトで乗降出来る車は介護者にも介護を受ける側にも優しいですね。
介護機器を利用するときは介護をする側の都合だけではなく介護を受ける側の事も考えたいものです。



※こちらはトヨタのホームページより拝借しました。
移乗は人力。腰を痛めるかも？